三和教田遺跡I地点

2003年

日田市教育委員会

序 文

三和教田遺跡は日田盆地の北部にある旧石器時代から中世期の複合遺跡で、近年、宅地開発や店舗建設が増加しています。

この遺跡一帯は過去数回にわたり発掘調査が行われ、遺跡の内容が徐々にではありますが、明らかになってきております。 本書が、文化財の保護や地域の歴史、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

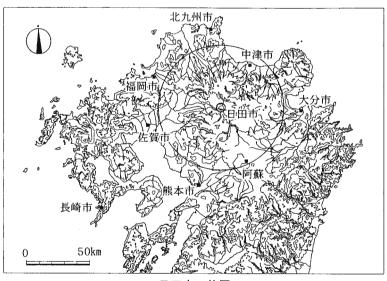
最後になりましたが、調査にご協力いただきました事業者や地権 者の方、ならびに作業に従事いただきました地元の皆様方に対して、 心から厚くお礼を申し上げます。

平成15年7月

日田市教育委員会

教育長 後 藤 元 晴

- 1. 本書は日田市教育委員会が平成 14 年度に実施した三和教田遺跡 I 地点の 発掘調査報告書である。
- 2. 調査は、当委員会が宅地造成工事に伴い、有限会社 明代不動産の委託業 務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
- 3. 調査にあたっては有限会社代不動産 代表取締役 中川好明氏、地権者の 熊谷健一氏の協力を得た。
- 4. 調査現場での実測、写真撮影は若杉が行った。
- 5. 本書に掲載した遺物実測は若杉が行い、遺構・遺物の製図は藤野美音氏が 行った。
- 6. 空中写真は九州航空株式会社に委託し、その成果品を使用した。
- 7. 遺物の写真撮影は長谷川正美氏(有限会社 雅企画)撮影による。
- 8. 挿図中の方位、文中の方位角は真北を示す。
- 9. 写真図版の遺物に付した数字番号は、実測図番号に対応する。
- 10. 出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
- 11. 本書の執筆・編集は若杉が行った。



日田市の位置

本 文 目 次

I 調査に至る経過と組織	1
(1) 調査の経緯	1
(2) 調査の組織	1
II 遺跡の立地と環境	2
Ⅲ 調査の内容	3
(1) 調査の概要	3
(2) 遺構の遺物	3
№ まとめ	5

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図(1/20,000)	2
第2図	遺跡周辺図(1/1,500)	3
第3図	遺構配置図(1/200)	4
第4図	1号溝実測図 (1/50)	4
第5図	2号溝実測図 (1/50)	4
第6図	出土遺物実測図(1/3・1/4)	5

写 真 図 版 目 次

写 真 1 作業風景

写真図版 1 上 三和教田遺跡 I 地点の空中写真 (北から)

下 三和教田遺跡 I 地点の空中写真(真上から)

写真図版2 1段目 1号溝完掘状況(南から)

2段目 2号溝完掘状況(北から)

3・4段目 出土遺物



写真 1 作業風景

Ⅰ 調査に至る経過と組織

(1)調査の経緯

平成13年10月29日、有限会社明代不動産より日田市大字三和字西ノ更2654番地の1ほかに宅地造成工事を実施する計画があることから事前の照会文書が市教育委員会に提出された。この事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地日田条里遺跡の範囲に含まれ、さらに事業予定地周辺一帯は三和教田遺跡として、過去数次にわたる調査が行われている。こうしたことから、事業予定地にも遺構の存在する可能性が高いと判断したため、平成13年11月21・22日に国庫補助事業により、試掘調査を実施した。

その結果、縄文時代から弥生時代と思われる流路跡や中世の柱穴を検出、また、須恵器も出土した。この調査結果を踏まえて、事業者側には発掘調査が必要な旨を報告した。この時点で、事業予定地は農地転用が許可されておらず、すぐには発掘調査を開始することはできなかったことから、農地転用許可の予定がたった時点で協議を行うことになった。

その後、平成14年6月に許可の見通しがたったため、事業者と具体的な協議を行った。協議の結果、 発掘調査の対象範囲は道路位置指定部分に留め、盛土により造成を行う宅地部分は調査を実施しないこと で合意に達し、平成14年度は発掘調査、整理作業、平成15年度は報告書印刷を行うことで契約を交わ すことになった。

こうした経緯を踏まえ、農地転用許可後に調査を開始できるようスケジュール調整を行い、平成 14 年 6 月 18 日に委託契約書を締結し、同年7月3日~8月7日までの期間で発掘調査を実施した。また、整 理作業は平成 15 年 2 月 1 日 ~ 28 日 の間、行った。

調査はまず、機械により調査区と周辺の表土除去後、掘り下げを開始した。遺構面は礫を多く含み、遺構検出作業は困難を極めた上、調査区に沿って流れる水路のから水が染み出し、壁の崩落が相次いで起きた。その都度、壁の補修、機械による水抜きを行ったため、作業は大きく遅れ、7月23日に遺構検出作業が終了した。その結果、流路2条と柱穴が検出された。引き続き、遺構の掘り下げを行い、平行して実測、写真作業も行った。8月に入り、掘り下げ作業を終了し、その後清掃を行い8月6日に空中写真撮影を実施、翌7日に器材を撤収してすべての発掘調査業務を終了した。

(2) 調査の組織

調 査 主 体 日田市教育委員会

調查責任者 日田市教育委員会教育長 後藤元晴

調 査 統 括 文化課課長 後藤清

調 査 事 務 同 文化財管理係長兼埋蔵文化財係長 田中伸幸(平成 14 年度)

同 主幹兼埋蔵文化財係長 佐藤晃 (平成 15 年度)

同 埋蔵文化財係主査 園田恭一郎、同主事補 酒井恵

担 当 者 文化課埋蔵文化財係主事 若杉竜太

調 查 員 文化課埋蔵文化財係主査 土居和幸、同主任 行時桂子、同主事 渡邉隆行

調査作業員 小笠原和子 立花カネ子 平川寅記 広瀬典子

深水徳松 三苫久美子 用松昭羅 用松九州男

整理作業員 井上とし子 宇野富子 梶原ヒトエ 川原君子 安元百合 和田ケイ子

遺跡の立地と環境 (第1図)

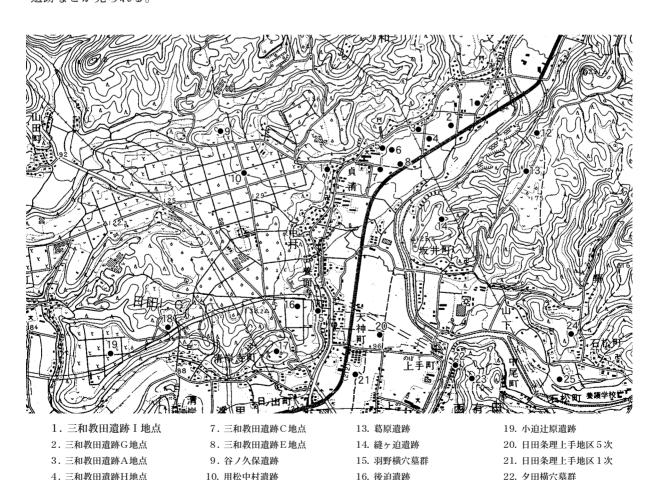
4. 三和教田遺跡H地点

5. 三和教田遺跡 B 地点

6. 三和教田遺跡 D地点

三和教田遺跡Ⅰ地点は日田盆地北部の花月川右岸の沖積地上に存在する。遺跡周辺一帯ではこれまでに 数次にわたる調査が行われている。これまでの調査を概観していくと、最も下流に位置するC地点では 縄文時代後期から晩期の流路、隣接するE地点ではこれに続くと思われる流路が確認されている。このC、 E地点からほぼ真北の沖積微高地上にあるB地点では弥生時代後期中頃から後半の環濠集落のほか、旧石 器時代のナイフ形石器や古墳時代後期の溝や竪穴住居跡、掘立柱建物が確認されている。中でも古墳時代 後期の溝埋土からは小型の円面硯が出土するなど、この地域での中心的な位置を占めていたことが窺える。 A地点からほぼ真東約 100 mには中世期の水田区画や柱穴が確認されたH地点、古墳時代初頭の流路な どが確認されたG地点がある。G地点に近接する北側にあるA地点では弥生時代後期~終末にかけての土 坑群が確認されている。

次に沖積地の周辺をみてみると、日田盆地の地形的特徴の1つである台地が展開している。花月川左岸 には葛ヶ原台地が展開し、縄文時代から古墳時代にかけての集落が確認された葛原遺跡や葛原古墳、台地 南西の端部には縫ヶ迫古墳群などが存在する。一方、花月川左岸には盆地内で最も発達した台地の1つで ある山田原台地が展開する。台地上には弥生時代前期末~終末にかけての集落が営まれた後迫遺跡、その 北側には用松中村遺跡、用松中村古墳、谷ノ久保遺跡などが存在する。また、台地東側の崖面には羽野横 穴墓群をはじめとする多くの横穴墓が展開している。山田原台地からさらに西に目を向ければ、古墳時代 前期の豪族居館が見つかった小迫辻原遺跡や弥生時代終末~古墳時代前期の墓地が確認された草場第二 遺跡などが見られる。



第1図 周辺遺跡分布図(1/20,000)

11. 用松中村古墳

12. 葛原古墳

16. 後迫遺跡

17. 草場遺跡

18. 草場第二遺跡

23. 夕田遺跡

24. 内ノ下遺跡

註

- 1) 三和教田遺跡はこれまでにA地点から J地点の 10 次にわたって発掘調査・試掘調査を実施している。
- 2) 吉田博嗣編『三和教田遺跡C地点』県道大鶴熊取線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大分県文化財調査報告書第 98 輯 大分県教育委員会 1997
- 3) 若杉竜太「三和教田遺跡 E 地点」『平成 10 年度 (1998 年度) 日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2000
- 4) 土居和幸編『三和教田遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第14集 日田市教育委員会 1998 土居和幸「三和教田遺跡 B 地点」『平成6年度(1994年度)日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 1996
- 5) 若杉竜太「三和教田遺跡 H 地点」『平成 12 年度 (2000 年度) 日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2001
- 6) 吉田博嗣編『三和教田遺跡 G地点』日田市埋蔵文化財調査報告書第27集 日田市教育委員会 2000
- 7) 渡邉隆行編『葛原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第39集 日田市教育委員会 2002
- 8) 若杉竜太編『後迫遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第35集 日田市教育委員会 2002
- 9) 西哲弘他編『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報』—日田~玖珠間— 第4集 大分県教育委員会 1994
- 10) 田中裕介編『小迫辻原遺跡 I』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(10)大分県教育委員会 1999 土居和幸編『小迫辻原遺跡 II』 日田地区遺跡群発掘調査報告 2 日田市埋蔵文化財調査報告書第 15 集 日田市教育委員会 2000
- 11) 高橋徹編『草場第二遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 大分県教育委員会 1989

Ⅲ 調査の内容

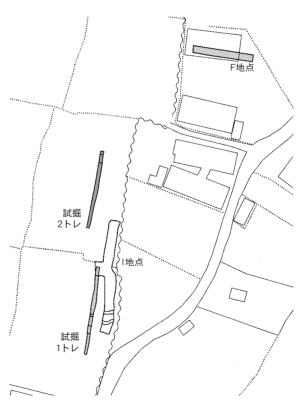
(1) 調査の概要 (第2・3図)

調査は既述したように道路部分約265㎡を調査対象とした。調査区は全体にわたり、黄褐色の粘質土で非常に水気の多い地山である。また、花月川の氾濫によるとみられる礫が多量に堆積していた。遺構としては溝2条、柱穴数基と少なく、遺物の出土も十数点であった。

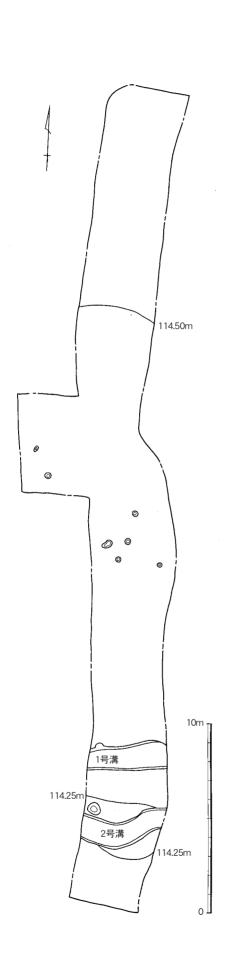
(2) 遺構と遺物

1号溝(第4図·図版2)

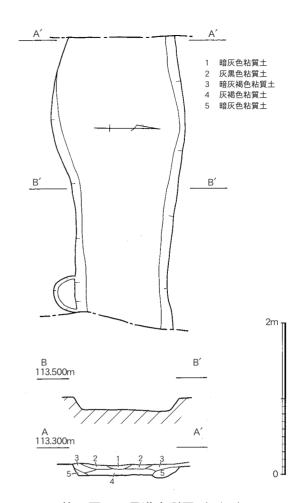
調査区の南側で検出され、調査区を横断するようにほぼ東西方向に掘り込まれている。幅 1.3~1.5 mで、調査区内での長さは約 3.8 m、検出面からの深さは約 20cm である。溝の底面はほぼ水平で、断面形は逆台形を呈する。埋土は灰色系の粘質土で、2、5層には炭が若干量、混入する。埋没状況は土層観察から両側からほぼ同時に埋まっていったことがわかる。遺物は弥生土器片が数点出土している。



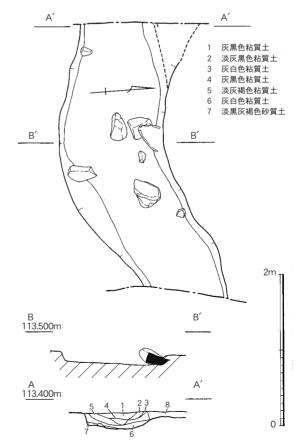
第2図 遺跡周辺図(1/1,500)



第3図 遺構配置図 (1/200)



第4図 1号溝実測図 (1/50)



第5図 1号溝実測図 (1/50)

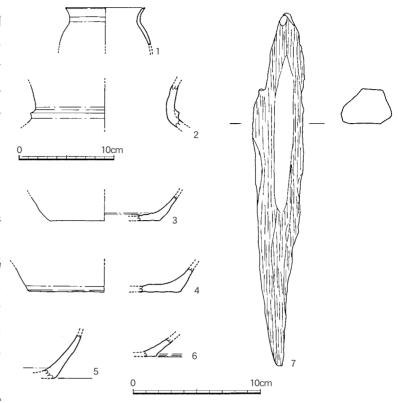
2号溝(第5図·図版2)

溝の南側で検出された。溝と同様に調査区内を東西方向に横断しているが、緩い「く」の字形にカーブしている。調査区内での長さは約 3.6 m、検出面からの深さは約 20cm である。

出土遺物 (第6図·図版2)

1は土師器の壺の頚部である。 溝から出土した。復元の頚部形は15.6cm、残存高は4.1cmで、 色調は外面が淡褐色、内面が灰褐 色を呈する。外面にはナデを施す。 長石・角閃石・赤色粒・白色粒を 含む。2は弥生土器の甕である。 試掘調査の2トレンチから出土し た。復元口径は

8.2cm、残存高は 4.0cm で、色 調は外面が淡赤褐色、内面が淡黄



第6図 出土遺物実測図(1/3・1/4)

褐色を呈する。石英・長石・白色粒を含む。3~6は土師質土器椀である。3~5は試掘調査の1トレンチから出土した。3は復元底径8.6cm、残存高2.0cmで、色調は淡赤褐色を呈する。角閃石・白色粒・赤色粒を含む。4は残存高1.5cmで、色調は黄褐色を呈する。長石・角閃石・白色粒・赤色粒を含む。5は復元底径12.0cm、残存高は2.0cmで色調は淡褐色を呈する。底部は糸切りで、内外面ともナデを施す。また、外面にはススが付着する。長石・角閃石・白色粒・赤色粒を含む。6は包含層出土で、残存高3.5cm、色調は淡赤褐色を呈する角閃石・白色粒・赤色粒を含む。7は2号溝北側より加工木である。部分的に面取りされており、杭と考えられる。長さは27.9cm、幅は0.9~3.9cmである。

Ⅳ まとめ

今回の調査では溝2条と柱穴数個が確認された。1号溝からは弥生時代後期中頃の壺・古墳時代前期の壺が1点出土しているが、流れ込みの時期決定を行うには材料に乏しいといわざるをえない。また。この他の遺物では土師質土器椀が数点出土している。底面がヘラ切りと糸切りのものがあり、調査区周辺に古代後半~中世にかけての遺構が存在した可能性が考えられる。

今回の調査では溝や柱穴が検出されたものの、集落が存在していた確証は得られなかった。また、平成11年度に行ったF地点の調査でも近世遺構が検出されたものの、それ以前の遺構は検出されなかった。下流にある C、E、G 地点の調査でも検出遺構は溝や流路が中心でり、集落は本調査区周辺でも台地の裾部に近い微高地に展開していたのであろう。

写真図版 1



三和教田遺跡I地点の空中写真(北から)



三和教田遺跡 | 地点の空中写真(真上から)

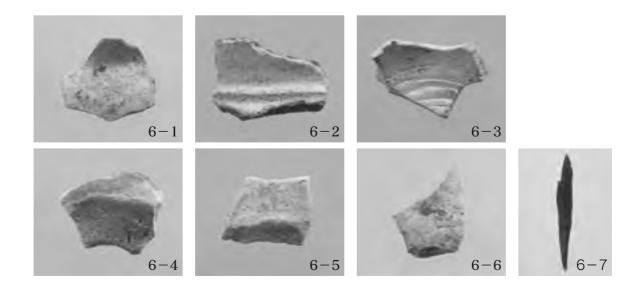
写真図版 2



1号溝完掘状況(南から)



2号溝完掘状況(北から)



報告書抄録

ふりがな	みわきょうだいせきIちてん						
書名	三和教田遺跡Ⅰ地点						
副書名							
巻 次							
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	44						
編著者名	若杉竜太						
編集機関	日田市教育委員会文化課						
所 在 地	〒877-0077 日田市南友田町516-1						
発 行 機 関	日田市教育委員会						
所 在 地	〒877-8601 日田市田島2-6-1						
発行年月日	2003年7月31日						

		コード		11.44		-m- t- +tn ==	=m + 1 + 2	-m -t- c- c-
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積m	調査原因
三和教田遺跡	大分県日田市 大字三和 字西ノ更 2654-1他	44204-6		130° 57' 03″	33° 21' 13″	20020703~ 20020807	265 m²	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三和教田遺跡	溝	弥生時代	溝	弥生土器	
I地点		中世	柱穴	土師質土器	
				杭	

三和教田遺跡 I 地点

2003年7月31日

編 集 877-0077 大分県日田市南友田町516-1 日田市教育委員会文化課

発 行 877-8601 大分県日田市田島2-6-1 日田市教育委員会

印刷 877-0086 大分県日田市二串町345-3 日田時報紙器印刷(株)